

他者と協働しながら、未来へ進む児童生徒の育成
～「伝える」、「受け取る」を核とした授業実践を通して～

十島村立平島学園

1 研究のねらい

学校教育目標「豊かな心と高い志をもち、自ら学び、自分らしくたくましく生きる児童生徒を育成する」のもと、標記の研究主題を設定し、様々な社会的要請や教育の動向、本校の実態等を踏まえ、他者と協働する中で自分の考えを伝えたり、多様な考えを受け入れながら対話活動に取り組んだりすることについて実践的な研究を行った。児童生徒の伝える力や受け取る力を向上させることが重要であると考え、標記の研究主題に迫るために、自己肯定感の向上に向けた取組を基盤にしながら、各教科において「子供たちが勇気を出して伝えようと思うための手立て」と、「多様な他者の意見を受け取る場の設定」を核とした授業実践を推進していき、本研究の主題に迫っていきたいと考えた。

2 研究の概要

各教科において「伝える」、「受け取る」場面を意図的・計画的に設定した授業を実践することを主軸として研究を推進した。

(1) 「伝える」に対する研究仮説

子供一人一人を丁寧に見取り、自己の意見や考えに自信をもたせる手立てを講じることで、子供たちは勇気をもって相手に伝えようとし、主体的に学習に取り組むことができるであろう。

(2) 「受け取る」に対する研究仮説

多様な他者の意見や考えを受け取る場を意図的・計画的に設定したり授業計画の工夫をしたりすることによって、物事を多面的・多角的に捉えることができ、考え方や価値観の拡大・深化につながり、より効果的に対話的な学習に取り組むことができるであろう。

3 研究の内容

それぞれの仮説を検証するための手立てを6つずつ設定した。

(1) 仮説1を検証するための手立て

- ① 私の問い ② 途中振り返り ③ 机間指導・個に応じた指導 ④ 発問・教材資料の工夫
⑤ ICT活用 ⑥ 基礎・基本の定着

(2) 仮説2を検証するための手立て

- ① ゲストティーチャーの活用 ② 交流授業 ③ 既習者の活用 ④ 振り返りシートの工夫・活用 ⑤ ICT活用 ⑥ 基礎・基本の定着

4 研究の実際

(1) 仮説1

ア 私の問い

国語科の授業では、資料を引用してレポートを書く活動を行った。レポートを作成する際に根拠を明確にするために「私の問い」を立てた。



イ 発問・教材資料の工夫

外国語の学習では、黒板の端に学習の流れが分かるように掲示がされていた。複式の授業なので、わたりの時間に児童は自分たちで進めることができる。

ウ ICT活用

外国語活動及び外国語科の授業では、やり取りや発表を行う前に自信をもって伝えられるよう、タブレットで練習を撮影し、振り返りや改善を図るとともに机間指導や個に応じた指導、個別の評価にも役立てた。



(2) 仮説 2

ア 交流授業

他島との授業を通して、自分にはない意見に触れることのできるよい機会となった。また、その後の創作活動に生かすことができた。また、上級生の経験を参考にして、書く際には工夫した表現をすることができた。



イ 既習者の活用

国語科の授業では、手紙を書く活動への手立てとして、上級生（既習者）の「自分の思い出と伝えたい相手」についての映像を見せ、自分の意見をまとめられるようにした。自分では中々決められないような児童も、他者の考えを聞くことで、自分の考えがまとまったようだった。



ウ 振り返りシートの工夫・活用

毎時間振り返りシートに記入をして、学びの記録を取ることで可視化し、次時に向けての意欲付けを行った。記入後は、チェックをして児童に返している。話す（発表）への抵抗感を減らすためにも、まめに評価をし、自信がもてるようにしていた。また、単元の終わりには、自分の成長に対する自己評価ができるようにしていた。



5 研究のまとめ

(1) 成果

- ・ 他島の同級生の意見を取り入れて授業に生かしたり，既習者の意見を取り入れたったりしたことが，主体的に学習に取り組むことや多面的・多角的な考えを支える一助となった。
- ・ 「課題解決に向けて，自分で考え自分から取り組んでいる姿」，「異なる意見や考えでも受け入れながら自分の話をする姿」が向上した。
- ・ ICTを用いたことで，協働的な作業を効率よく行うことができ，また編集作業も容易に行えたので，対話的な活動へ時間を充てることができた。
- ・ 「伝える（話す・書く）」ことへの抵抗感が減り，発表できるようになった。

(2) 課題

- ・ 互いに意見を出し合って、考えを広げたり、深めたりして高め合えるような手立てを次年度は考えていきたい。
- ・ 「伝える」「受け取る」の場を設定しても、自信をもって思いを伝えることを苦手に行っている児童生徒がいる。学校教育の中で様々な機会を平等に与え、「伝える」ことの大切さを職員が一体となり伝える必要がある。

6 今後の取組

今後も、「伝える」「受け取る」を核として授業実践の充実を図っていきたい。極小規模校であることから制約も大きいですが、他島との交流等をはじめ、できることを積極的に取り入れていきたい。そして、多様な他者と協働して学び続ける児童生徒の育成に努めたい。